

# 武装蜂起

No.240  
84.1.19

マルクス主義学生同盟  
中核派・京大支部

下京区寺町通松原上ル京極町四九七 西田元

革共同 革命軍は一月九、十月 全国で一斉決起し、三里塚の敵 脇差派の主謀者「第四インター幹部五名に対し報復 粉碎の鉄

槌を加えた。(一部本紙剪報既報)

① 田辺敏和、三十七歳。けやき印刷担当常任。一月九日、東京

都品川区の自宅「ハイライブ太森」でせん滅。

② 太田恒久、三十一歳。第四インター常任、「立川反戦市民連合」幹部。同日、東京都立川市の路上で捕獲・せん滅。

③ 三木裕生、三十四歳。関西最高幹部、東大阪市職員入、七一白色テロル部隊隊長。同日、東大阪市上石切の自宅前でせん滅。

④ 尾形淳、三十六歳。関西最高幹部、兵庫県委員長。九日、尼崎市の自宅でせん滅。

⑤ 久野成章、二十三歳。共青同(学生インター)中四国キャリア。十日、広島市内の拠点アシトで摘発・捕捉・せん滅。

この決起は、昨年三・八分裂以後の彼らの三里塚破壊、白色テロに対する、抑えに抑えてきたわれわれの怒り、たしかに全人民の怒りの爆発だ。同時に、脱落派を使つた日帝、中曾根の二期早期着工攻撃に大打撃を与える、実に鮮かな勝利だった。

一・九・十戦闘とは何なのか。全人民の、金串友の生活に潤滑があるのかないのか。三里塚では何が起き、中核派は何をしようとしているのか。

われわれは本紙前号の基本的主張にふまえ、ひき続き起きていく事態を明らかにし、三・二五三里塚現地への全軍の総決起を呼びかける。

I 第二次中曾根内閣の一二期着工攻撃を粉碎せよ

十月ロッキーード田中判決、一二月総選挙での自民党大敗の中成立した第二次中曾根内閣は、第一次以上の危機的で反動的な政権だ。

（次頁へ続く）

3 25 28  
全閣西三里塚大集会  
義 反対公金需賛 賛勵子葉



ファシスト・カクマルに3.14復讐の鉄槌を！

# 二期突撃の第二次中曾根内閣と対決し 3.25三里塚現地に総決起せよ

「田中氏の影響排除」なる大ペテンの「総裁声明」と新自由カラゲの賃収で何とか多数工作をした中曾根は、途端に居直り、田中派六人（オ一次と同数）へ閣させ、田中筋の田中六助を幹事長にした。そして元旦から靖国神社に参拝し、「今年は政治改革のスタートの年」とぶちあげた。八年度予算は「超緊縮」の中でハ三五年以上の一軍事費突出と大増税が企まれてゐる。反動政治への人民の怒りが総選挙に表われ、重いな危機感に陥ったにもかかわらず、中曾根は、ますます軍事化・改憲へ空進する以外に延命の道を持たないのだ。そしてその突破口が三里塚二期攻撃だ。

中曾根は、「成田二期」にこれの延命と日帝の軍事大国への飛躍の全てを賭けてきた。第一回中曾根内閣は、何よりもその觀点に貫かれた二期突撃内閣なのだ。

中曾根は、「成田二期」にこれの延命と日帝の軍事大

国への飛躍の全てを賭けてきた。第一回中曾根内閣は、何よりもその觀点に貫かれた二期突撃内閣なのだ。

中曾根は、「成田二期」にこれの延命と日帝の軍事大

国への飛躍の全てを賭けてきた。第一回中曾根内閣は、何よりもその觀点に貫かれた二期突撃内閣なのだ。

着工迄なしとげようとして、「成田空港の一期工事問題に、いつては、いいところまでこぎつけているようで、全力を尽すがたい」（就任記者会見）「空港の建設は公共事業として優先度が高い。成田の一期工事をぜひやらないと国際空港として恥ずかしい。」（一・六付サンケイ）等の發言をくり返している。細田は一期開港の張本人で二期一筋極的な福田派の「実力者」だ。

更に中曾根は地元千葉二区から水野清と山村新治郎

と建設組・農水相に据えた。いずれも総選挙で「成田完

成」を前面に掲げている。

水野は成田市出身、この間の反対同盟切り崩し工作の黒幕だ。成田水理事長であり、ハ一年石橋勝喜貿易長（二二）に全人民の未来か——全学友の未来がある。

## II 第四インターに対する戦闘への決起について

### 1 反革命分子五名の罪状

勝利のために、脫落派・第四インターの粉碎・一掃が

①

けやき印刷担当在・田辺敏和

絶対必要だ。三里塚が人民の命運をかけて決戦に突入し

た時、敵の手先と化し、背後から襲いかかってきたのが彼だ。

昨年三・ハ反対同盟分裂以降、連中は全国で闘争破壊

、白色テロをくり返してきた。とりわけ一・九、十に

田用水を推進する条件派のことは「排除するのは闘争

を始めた第四インター幹部五名は、断して辞すこと

できまい反革命分子だ。

（当時）玄賃收、裏切りに導いた張本人だ。一月七日成田市役所玄訪問して「二期推進事業を応援する」と立ち上げている。また山村は運動族出身で、空港建設に巨大な利益を抱えている。

中曾根の二期にはた並々ならぬ決意を表すものだ。

一日九日付千葉日報では、水野、山村、公団総裁秋富、芝山町長眞行寺らが座談会を行ない、「今こそ完全空港へ」「空港との共存共榮」と口々に叫びたてている。

また、羽田空港の渋谷拡張の本格化、関西新空港事業主体の決定（特殊会社）は、三里塚二期玄大前提としている。

中曾根は、三里塚二期玄大前提としている。

興奮ぶりで口を離さなかった。

田園の「一畠」は、主に耕作地を意味するが、  
「一畠」は、主に耕作地を意味するが、

（中略）

これが何を權力に起つてゐたのである。

もはや放置できぬ!!

(3) 関西最高審部、東大阪市職員入試不格生は、何よりも昨年七月、関西照葉派集会責任者、白石三郎郎部長である。日本基督教団大阪府委員会の事務局長として、

西日本軍事部、兵庫県警視監形勢は、木目一  
タ一日で、西日本軍事部へたるが如きは、  
の如き余りかであります。一、兵庫県警視監  
の田舎へ入ります。二、大同様、一下木目一  
の面前で、兵庫県警視監に進行する。三、  
鐵砲の重体にて、これでござる。

卷之三

第三回 一朝天子破壞了榮寧府 二十三

「ル部隊の一員であり、しかも「七、一七四〇」。中核派

卷之三

卷之三

國文語彙研究の進行

脱着衣、オハイニターのヘギーの罪状は、昨年三

化運動」の二種類があります。農業生産の問題は、十数

（本題）敵の軍事的路線は、孤立化した軍区としての存在理由であれ、十八年半程の戦いを賣して、その破壊活動だ。昨日一ノターナーが「強硬」推進して、又回顧としてのつた因のため勝利の基本路線を破壊するやうである。

（『絶対許さない』。国連主体の支持・防衛はたたかう  
の立場を階級的結果の最低の一線だ。）――が石井  
（一九四〇年八月、日帝・公団の一期攻撃に因る）

「アーニー、お前がアーヴィングの正式葬儀を撤回求めら  
うとしたのは結構重ねてやった。だが服装は、オハイヒーラー  
一色だ」「魔羅魔羅アーヴィングの死」アーニーはアーヴィングの死

案を呼べ」「指導」して「ナードー」を呼びつける行為です。

かり抜いてギリ。二の教訓は時落派に対しても生かされ  
ねばならない。

人民のたたかいで否定する白色テロリスト

革命的武装闘争の否定である。

實力獎——黃金的二三六萬——一百八

卷之三

三里塚において権力はその暴力的本性を露ににしてきた。問答無用の土地取り上げのために数千数万の機動隊を動員し、人民殺しをあえて行なつてきた。反対同盟農

民は、生きるために、何としても軍力抵抗を強く必要があつた。そしてそれを賣き、生き抜きたてかい抜いてきたのだ。三里塚の東力闘争は、十年の血と汗が結実した勝利の道であり、人民はいかにいたかうべきかを指示している。

革命的武装競争は、實力競争の眞に勝利し得る所だからである。敵権力は少數であり本正義であるにもかかわ

（つづ）なぜ人民を支配し二期を施行しようとしているのか  
唯一組織と自覚と武装に優れているからだ。やめやれば  
実力闘争を革命的武装闘争として一層組織的、自覚的、  
武装的に推進することで、絶対勝利することができる。

脱落派・第四イニターは革命的武装闘争に情熱をもて出しにしている。曰く「党派的「マーニャル的」のイニター」「國争」「私党的地下秘密戦争」と。要するに彼らは、一期攻撃に対して反撃してはならないと云つてゐるのだが、人民は権力に何ひとつ抵抗してはならぬと主張してゐるのだ。

脱落派・第四インターの「第四の罪状」は、「うしち  
人民のたたかいの否定と表裏一体をなす、たたかつ人々  
への白色干渉、暴行の数々である。

「——警察局に渡し、十一・二〇岩山記念館襲撃を主點に、無教の暴行がなされてゐる。十一・二〇につり十二・二月著者声明は何と言つてゐるか。「当然の行為であります」、「責任は中核派の心理戦、排除行為と心を放置してゐる反対同盟にある」、「第三の不毛衝突は今後もおこりうるでありますよ。」云々。

三里塚闘争は十九年間幾多の犠牲を出したながら、流血で血を染して無數にせず隊伍を束力で守ることで亡

用落済和田三郎作於西七

前報未利用した二期装置を起動せり。

た「話し合い」改革である。一九五〇年に日本でしたのが賑落派の存在だ。中曾根と賑落派は互いに憮然公然として「話し合い」工作を進め、三里塚を田地売却・無効開

五・二の脱落派の重衡省との談合。六・二中曾根  
一期着工宣言。十一月「一坪再共有化」策動の強まりと十  
一・二〇暴行。十一・一一長谷川・沼田会談。十一・二  
二脱落派「事務局長」管天の「話し合い」応諾宣言。十  
二月二期矢野川第二次中曾根内閣の成立。昨一年の終

緯と見ても事態は明白かだ。

中曾根はイチから二期体制を構築してきていた。だから、一・九・十戦闘・脱落派・第四一・二・一掃は絶対に必要であり、正義なのだ。のみならず、

期攻撃に大打撃を受ける決定的打点がいるのだ。

中核派は、第四インターのよう、「氣樂に」「自由  
たたかいを裏切り、敗北に導く党派ではない。われや  
は革命的な前衛党である。われわれは責任をもつて人々  
なたたかいは何がろうとも奮闘する。

「三閑委」。

### 「三閑委」の京大脱藩派赤ヘルについて

(1) オナイスター五君に対する鉄趙は、同時に金での落葉による上、一直アロの凶行を知りつつ、これに賛成。脱藩派との加担者に対する最後の警告である。眞に、し、脱藩派ヒラとまじた者について、自らの犯罪性を自覚し、い、ヤーの活動と組織を解体して、反対同盟と全国人民に謝罪、自己裁判せねばならぬ。でもオナイスター、「三閑委」の極悪分子と共に進むまい。

京大脱藩派についても、基本的立場は同様である。

(2) 赤ヘル内に興復の「三閑委」がひと握りの極悪分子について、彼らはオナイスターと同罪である。自分について、彼らはオナイスターと同罪である。自己裁判の余地はない。

われわれは、改めて彼らに対する戦闘宣言を綴る。一  
九、十は内戦を想定のものとした。戦争などというものが、中核派は、の十余年とうつ戦争をしてきたの  
れ、彼らは考へるべきだ。われわれは断じて彼らを許さ  
ない。階級的罪は未だ承認するものではない。即ち自己裁判し、

(3) 九月の京大脱藩派集会をもぐる一連の過程で、脱革命的暴亂闘争の皆へ強固につち固めしていくのである。

（4）これら脱藩派を認め、多かれ少なかれこれに連な  
れることは、改めて彼らに対する戦闘宣言を綴る。一  
九、十は内戦を想定のものとした。戦争などというものが、中核派は、の十余年とうつ戦争をしてきたの  
れ、彼らは考へるべきだ。われわれは断じて彼らを許さ  
ない。階級的罪は未だ承認するものではない。即ち自己裁判し、

（5）われわれは、京大脱藩派の反革命力クマルをせん  
りを引くべきである。

三、一、五日起義は開始された。拓けた勝利の道を断固  
突き立たなければならぬ。大日本帝國アーヴ、パルチザン  
の戦争の空前の爆発力かられて、  
反対同盟守り抜き、三、二五頃迄へ総決起だよ！  
マテクス主義学生同盟由来派、京大文部に結集し、全  
滅れ川里塚二期決戦勝利、英明的武装闘争の如くせみ、